時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價（府外遞送には此他後に掲ぐる遞送料を要す）

一號　貳錢五厘〇一箇月　前金五拾錢〇三箇月　前金壹圓四拾五錢〇六箇月　前金貳圓八拾五錢〇一箇年　前金五圓六拾錢〇月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末等一切休刊セズ）

前金　一旦受取たる前金は凡て通貨を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報遞送料

一　日本國内並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津　一箇月　金拾三錢

二　南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國　一箇月　金六拾錢

三　北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋　一箇月　金三拾錢

四　香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲　一箇月　金六拾五錢

五　露領浦潮斯德、清國諸港　一箇月　金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

廣告料定價　時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の内には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絶する事もあるべき筈に付兼ねて廣告依頼者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず偶り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんみとを請ふ

時事新報社に達したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

電話交換を民業と爲す可し

電話機の發明は十數年の以前に屬すれども之を人間日常の用に供するに至りしは極めて近來のみとにして西洋諸國に於てさへも昨今漸く其効能の大なるを實際に體見しつゝある位の次第なり我國にては明治二十三年に始めて東京横濱に交換局を設立して電話の事業を開きたるに人民は忽ちにして其利益を知り爾來漸々加入者を殖して營業益す擴張し今日に至ては會社、商店、醫師、代言人等苟も社會に立て繁雑の業務を取る者の缺め缺く可らざる必要品と爲りたるのみ乃ち近來の一大怪事なれ單竟するに日本人が文明の利器を利用して自から益するの能力に乏しからざるの證據にして我國の繁に滿足する所なれども茲に不都合千萬なるは其架設を申込む者の日に增加して催促頻りなるにも拘はらず政府が自家會計上の都合よりして人民の請に應ずるみとを能はざるの一事なり去月九日の時事新報に「電話架設の繁盛」と題して左の記事を掲げたり

今回の遞信省豫算要求書に說明せるが如く電話交換は加入を請ふもの年を逐ふて增加し二十三年度より二十五年度に至る加入申込人員は千五百六十四人にして本年度は去る四月より八月に至る五箇月間に申込人員既に四百七十六人に達し之に據りて本年度中（即ち明年三月末日まで）の申込人を推算すれば都合千百餘人に達する勘定なるが何分建設費に限りある以て到底その申込みに應ずる能はずして先づ本年度内には總數千六百四十七人（開始より合算して）以上を超過するを得ず依つて來る二十七年度には千餘人の申込人を持越す勘定なるを以て同省にては明年中に千人の加入に應ずる爲め東京電話交換所の增設費として二十萬千百七十三圓二十錢五厘を要求する明年末か或は明年後に入らざれば架設せらるゝの見込なきより目下既設電話の權利は賣買せられ其權利を譲り受けんには百圓乃至百五十圓を要し明年二三月頃に架設せらるべきものは其權利のみにて六七十圓にて譲渡さるゝ勢ひなれば若し不幸にして豫算不成立となる場合には既に申込みあるものも明後年に延さるゝのみか今より申込まんとするものゝ如きは殆んど其架設の期を豫定す可らざるに至るべし蓋し豫算不成立となれば本年度の豫算に因るの外なく而して本年度の豫算は僅かに五百人計りの加入に應ずるみとゝなり居れば見ても其需用を充す能はざるは勿論にして又本年度の豫算のみにては經常費に於て不足を告げ到底その僅にては立行ず云々

蓋し電話加入者の增加するは即ち其れ丈け交換局の收入を增加するみとにして營業者たる政府の爲めに利益なるは勿論一方に於て人民が頻りに加入を希望して其爲めには規則外に餘計の錢を拂ふをも辭せざる程の好景況にてありながら俗に云ふ杓子定木の豫算に限りありとて人民の所望を滿足せしむるみとを能はずして營業に利すべきの利を利せず誠に馬鹿氣切つたる次第にして何と評論の言葉もあるべき可らず而して此不都合を除くの方法は如何と云ふに我輩の所見を以てすれば電話交換の事業をして政府の手を離れて純然たる民間の事業たらしむるの外に策なしと信ずる者なり或は今日の弊害は議會が漫に政費を節減するの結果なれば此處暫らく辛抱して議會の形勢一變するを待つに如かずとの說もあらんかなれども如何にせん議會と政費節減論とは殆んど相離れ難きの因緣ありて何年を經れば兼院の議場に豫算削減の聲を聞かざるに至るや知る可らず斯る當もなき事を當にして眼前に差掛りたる社會の不便利不自由を等閑に附するは實に不深切の至と云はざるを得ず且又假令ひ萬一にも議會の故障にして全く削失するみとあるも我輩は尚は電話交換の民業たらんみとを欲する者なり何となれば此事業の如きは寡ろ商賈的の仕事にして營業者は常に機に臨み變に應じて事を處するの覺悟なかる可らず商賈の思想に乏しき役人輩が究竟なる會計法に束縛せられて毎年の始に豫算を立て假令ひ損するも益するも其一年丈は豫算の定むる所に背くみとを許さゞるが如き非商賈的の仕組にては到底滿足なる成績を得るの見込なければなり抑も電話交換の繁昌するは唯に人民の爲めに直接の利益なるのみならず是れに由て以て我國文明の程度を世界に示すの効能あるものなるに區々たる政府會計の都合の爲めに空しく其發達を阻碍するは惜す〳〵も遺憾に堪へず本年の臨時議會には是非とも電話交換を民業とするの議案を提出せんみとを我輩が天下人民の爲めに政府に向て切に勸告する所なり

雜報

○西洋夢判じ（續き）

又左に掲げしは「珍事一千題」よりの抜萃なり

第二十八　若しも女が火を焚着すると夢みれば是れ男の子を產む前兆なり

第二十九　若しも若き男が井の水を汲むと夢みれば其穀物の堆みたるに火の着きて燒失したりと夢ひる故飢饉及び人死の前兆なり若しも病人が水清らかなる河又は泉を夢ひれば病氣全快すべし

第三十　若しも若き男が井の水を汲むと夢みれば其男は久しきを出でずして婚禮す可く又ろの男がコップに一盃水を貰ひたりと夢ひるは結婚の前兆なり

第三十一　物量に充分の貯へありと夢ひるは富だる妻を娶る前兆なり

第三十一　若しも女が赤子を產みて其赤子の大ならざりしと夢ひるは產の輕き前兆なり若し又處女が同じ夢を見れば馳走と悅びとに遇ひ之に續て婚禮する前兆なり

第三十二　微雨を夢ひるは百姓の爲めに良し

第三十三　未婚の者が稻妻に觸るゝと夢ひるは結婚する前兆なりと雖も既婚の者は却て此夢の爲めに離縁となり友人をして敵たらしむ可し

第三十四　獅子の顏を有し又は之を見るは男の子を得る前兆なり

第三十五　豚肉ロースを夢ひれば近々の中に金談ある可し甘き葡萄酒を飲むと夢ひるは法律事務に成功する前兆なり

又同書に左の文章あり

破れたる橋の上を通ると夢ひるは恐ろしき目に遇ふ前兆なり大罪の爲めに首斬たるゝは友人の死を預告する夢なり手を洗ふは困難に遇ひ手の汚れで隨苦しきを覺ゆるは損亡と危難とを受くる夢の告なり羊に餌を與ふるは悲歎辛苦を告げ蠅を捕るは無理に遇ふか害を被るみとを告ぐる夢なり（マイザルダス）

（前略）蜂に隨ふて行くは得をすると告ぐる夢なり結婚は友人の死去を報じ天帝を禮拜するは悅び事を知らする夢の告なり鏡の中を見るは何事か身に降掛り來るかは但しは赤子の出生を告げ油を身體に注がるゝは快樂を報ずる夢なり

夢の中に骨骼を見るは死又は災難を告知らするなり肥えたる牝牛を見るは總て物を不斷に所有する前兆にして目又は齒を失ふは或る友人又は親類の死去又は其他の或る凶事を預告し己が妻子になりたるは近々悅び事のあるみとを知らすなり牡牛が鋤を引くと夢ひるは儲けを告げ知らし水に入ると夢ひるは凶事を報ずるなり（アルチミドーラス）

夢の中に蛇を殺すは勝利を報ずるなり船の帆を見るは凶なり口中、總ての齒が血に塗れたりと夢ひるは之を夢ひる人の死を意味するなり然れども其總ての齒が抜去らるゝは他人の死を豫告するなり鳥の群ゐ來るは損を告げ夢者の泣くは悅びを知らす夢なり錢を弄るは怒を招き死したる馬を見るは吉運を預告する夢なり（アルチミドーラス）

羊の皮を被りて眠る者は事實の夢又は今後、事實と反する可き夢を見る可し

又「王家夢の書」を以て分けたるものは左の如し

樞實　樞實を食べ前兆なり

知己　と喧嘩する神壇の一部が水の碗と女が之に嚙くとなれば後來、水夫つ可し

蜂　又は蜂を夢ひる家族の中に住ひて結婚し夫婦中よく天人一人又は多化するは尙は一層るは凶なり

怒　怒らされたり

釣　釣の夢は難儀

落物　を失ひたるを告ぐるなり

幽靈　を見るは最の友たるみとを明

拘留　されたるか但ひるは智惠なきみ

惡人　を愛するを示

毒蛇　を夢ひる人の妻を娶る可し

水浴　水に浴する萬事好都合にして

舞踏會　に於て人ゆる時は恥と悲みひるは悅びと快樂なり

蜂蜜　の中に在めし二疋の土鳩が籠の終りに於て結婚

饗宴　盧女の側

惡魔　の夢は大吉物置　物置に穀物を全ふするか法廷は金持となる可し

井　井の夢は之し又みの井より新鮮元豆　隱元豆なりとして不熟練なり

蜂蜜　の中に在めし二疋の土鳩が籠の終りに於て結婚

饗宴　盧女の側

惡魔　の夢は大吉物置　物置に穀物を全ふするか法廷は金持となる可し

井　井の夢は之し又みの井より新鮮元豆　隱元豆なりとして不熟練なり

食　貧乏人又は

取　取りて行くわたるとの箇條を略

目　になりたる

捉迷藏　捉迷藏を

愉快　快樂を得る

船　と